

第1回 交野市環境基本計画策定ワークショップ 摘録

1. 日時：令和3年6月30日 15:00～16:30
2. 場所：交野市役所別館3階中会議室
3. 出席者：濱 中 委員長（環境部長）
足 立 副委員長（公募市民）
玉 井 委員（公募市民）
田 中 委員（大阪府環境農林水産部エネルギー政策課）
幸 田 委員（地方独立行政法人大阪府環境農林水産総合研究所生物多様性センター）
西 委員（交野市工業会）
荒 賀 委員（交野市商業連合会・代理出席）
山 本 委員（かたの環境フェスタ市民会議）
藤 田 委員（交野里山ゆうゆう会）
多田羅 委員（交野市環境基本計画推進会議・自然部会）
浅 田 委員（交野市環境基本計画推進会議・エコ生活部会）
北 迫 委員（交野市環境基本計画推進会議・まちづくり部会）
久 保 委員（交野市環境基本計画推進会議・エネルギー部会）
苗 村 委員（環境部次長兼環境事業課長）
中 井 委員（環境総務課長）
南 委員（企画財政部次長）
林 委員（都市計画部次長）
藤 原 委員（都市整備部次長）
伊 藤 委員（学校教育部次長）

事務局 環境衛生課（古賀、谷口、魚住、宮根）
NPO 法人木野環境（丸谷、土井）

4. 議事

1) 開会

- ・資料確認
- ・傍聴希望者の報告（傍聴希望者無し）
- ・委員の出席状況の確認、会議の成立を報告

2) 委員委嘱

- ・委員各席の机の上に委嘱状を配布することで委嘱状の交付とした。

3) 事業の趣旨について（濱中委員長）

（説明内容）

- ・環境基本計画は、環境基本法に基づき、市町村が区域の中長期的なビジョンを示す計画と位置付けている。
- ・現在の交野市環境基本計画の計画期間は、2012（平成24）年3月に定められ、2021（令和3）年度末までとなっている。
- ・今年の2月に行った現計画の評価検証結果では、計画に掲げる目標とその目標達成に資するプロジェクトを連動させる仕組みが効果的でなかった。
次期計画では、計画体系そのものの工夫と上位計画にあたる国、大阪府の環境総合計画の枠組みや指標を参考にすることが望まれるとの評価を受けた。
- ・直近の環境情勢、国のカーボンニュートラル宣言などを踏まえ、次期環境基本計画を策定していきたい。

4) 委員自己紹介

- ・各委員より、所属、氏名、環境との関わり、環境活動等についての自己紹介を行った。

5) 講演「2030年、2050年の社会をイメージする」（NPO法人木野環境）

- ・地球温暖化が進むと、気温上昇、海面上昇、異常気象、生態系の変化、農業への影響などが起こる。
- ・大気中の二酸化炭素は、化石燃料を発電所で燃やすことで増加し、地球温暖化を引き起こす。
- ・日本はこれまで京都議定書の第1約束期間に始まり、パリ協定の第3約束期間まで、温室効果ガスの削減目標を掲げてきた。第1約束期間は純粋に温室効果ガス削減だけでは目標値に達しなかったが、森林吸収のメカニズムを使って、数字上は削減目標を達成することができた。
- ・現首相は2050年までにカーボンゼロにする宣言を行ったが、現状の計画では2050年までに温室効果ガス80%マイナスが公の目標値である。（今後変わる可能性は大いにある。）
- ・大阪府は「2030大阪府環境総合計画」を策定し、2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目標としている。
- ・社人研による人口推移予測では、交野市の人口は、減少すると予測されている。2050年をイメージする際に、化石燃料の使用量が20%（0%）になって、人口が10%減少している社会を考えてみる。
- ・電気、ガス、ストーブ、車、プラスチック、農業用肥料がどうなっていくか。
- ・国内外の企業では、二酸化炭素排出量を大きく削減した車の生産を目標としたり、社内で使用する電気を全て再生可能エネルギーで作られた電気にすることを宣言したり（RE100）するところが増えている。またガソリン車の販売を禁止する国などもある。
- ・プラスチックも石油製品なので、容器包装などのプラスチックを削減する企業、プラスチックの容器包装を禁止する国、なども多く出てきている。

6) 市民アンケート・事業者アンケートについて

- ・市民アンケート案・事業者アンケート案をについて、委員のみなさんから様々な意見、提案と質問をいただき、提案と質問についてはそれぞれ見解を示し確認された。いただいた意見については事務局が、修正し事務手続きを行うことで了承を得た。

(主な意見等)

- ・設問構成が個人・交野市域・SDG s などの世界の情勢的なことなどについて、整理ができていないように感じる。質問の順番を整理することで、回答し易くする工夫をすること。
- ・設問がページをまたぐ際には、見やすくするためレイアウトに配慮すること。
- ・用語説明は、最終ページでなくタイムリーに確認できるようにならないか。
- ・設問内容や回答内容で重複すると思われる部分、例えば問4と問7を整理し、アンケートボリュームをスリムにすることで、自宅時間が比較的少ない働く世代の方々の回答に繋がる工夫をすることも必要ではないか。
- ・問4の「満足度」と「重要度」の問い方だが、考え方としては、先ず「重要度」次に「満足度」とすることで、設問の主旨が理解し易いのではないか。
- ・問5では、身近に里山があるなどの交野市域の環境についての問なのか、行政が行う環境保全や啓発事業について問なのかを整理したうえで設問とした方が良い。
- ・問8の回答では、選択した回答によってはその理由を求めることとなっているので、記入し易い工夫を行うことが望ましい。
- ・アンケート内に出てくる「施策」という表現より「事業」とする表現の方が市民には馴染むのではないか。
- ・提案として、アンケートの回答者を個人に限定するのではなく世帯での回答を可能とすることで、環境について家庭内で話し合う機会も提供できて良いのではないか。
- ・質問として、アンケート対象者数の2,000通の根拠はどのようなものか。

7) その他

- ・事務局より第2回ワークショップの案内を行った。
日時：7月29日（木）14:00 から
場所：市役所別館3階中会議室及びWEB会議の併用
主な内容：次期計画に策定に向けたキーワードについて

8) 閉会